

## 平成29年度 第17回奈良県営競輪あり方検討委員会議事録

### I 開催日時

平成30年3月15日（木） 午前9時00分～午前10時30分

### II 開催場所

奈良県営競輪場 飛天交流館2階

### III 出席者

委員：粕井委員（委員長）、石黒委員、岡村委員、松岡委員（黄委員は欠席）

事務局：中川産業・雇用振興部長、杉中産業・雇用振興部次長

堀辺地域産業課長、山崎課長補佐、岡部係長、鈴木主任主査

丸谷奈良競輪場長、増田次長、平野係長

### IV 議題

- I 平成29年度記念競輪「春日賞争覇戦」の報告
- II 平成29年度 奈良競輪の売上状況
- III 平成30年度からの競輪事業について
- IV その他

### V 議事

事務局： それでは、皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより第17回奈良県営競輪あり方検討委員会の開催をお願いいたします。

委員の皆様方には、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日黄委員から欠席の連絡をいただいておりますが、4名の委員の方々に出席していただいておりますので、奈良県営競輪あり方検討委員会規則の定める会議を開くための定足数、すなわち委員の半数以上の出席を満たしておりますことを報告申し上げます。

それでは、次第に従いまして、まず産業・雇用振興部長中川よりご挨拶を申し上げます。

中川部長： おはようございます。本日はお忙しいなか、お集まりいただきましてあり

がとうございます。

皆様ご承知のとおりでございますけれども、先月の22日から4日間、年に一度の春日賞争覇戦がございました。地元選手の三谷兄弟にワンツーフイニッシュを飾っていただき、売上げは少し下がっているのですが、地元としては非常にいい機運が醸成されたのかなと思います。

優勝した三谷兄弟の弟さんは、競輪グランプリに出られて、残念ながら4着ということだったんですけれども、こういう形で奈良の競輪場に素晴らしい選手がおられるということが皆さんに周知されたら、またお客さんも増えてくるだろうし、売上も増えるだろうと思っております。

平成29年度の売上については大体142億円ぐらいの売上になる見込みでございます。昨年度は一般会計のほうに5,000万円の繰り出しをさせていただきましたけれども、29年度につきましても一応5,000万円の繰り出しを予定させていただいております。皆様方のいろいろ、ご支援の賜物というふうに思っております。

平成30年度の予算でございますが、売上は156億円程度を見込んでおります。西日本カップという多くの場外協力が得られる開催を奈良で開催させていただけるということで、一般会計への繰り出しにつきましても、少し欲張って今年度より少し多い7,000万円というふうに思っております。

競輪場はやはり皆さんに愛されて、車券を買っていただくだけでなく、近所の方が足しげく通っていただけるような施設、親しみを持っていただけるような施設にしていかなければと思っております。

今年の春日賞のときも、近所のお子さんを連れた若いご夫婦の方はかなり来ていただけていました。これは本当に20年前の競輪場とはがらりと変わって、親しみの持てる施設に少しずつ変わりつつあるのかなということでございます。

また、半年に一度のあり方検討委員会ということでございますので、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局 : それでは、議事に入ります前ですが、傍聴を希望される方がおられますので、入っていただいております。

傍聴の皆様方には、傍聴要領に記載された注意事項にご留意いただきまして、議事の進行にご協力いただきますようお願い申し上げます。

それでは粕井委員長、議事の進行をよろしく願いいたします。

粕井委員長 : それでは、本日の次第に従いまして進めてまいりたいと思います。委員の皆様、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

早速ですが、まず議題Ⅰ、平成29年度記念競輪「春日賞争覇戦」の報告に

ついて、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局 : 議題Ⅰについてでございます。

奈良競輪場唯一のGⅢレースで2月22日から25日にかけて開催し、本年度の売上は約52億1,000万円となり、昨年度と比較しまして約4億4,000万円の減となっております。全国的なGⅢレースの平均売上額が減少傾向にあるのと同じく、春日賞の売上も年々減少傾向にあるという状況でございます。全国の各場の平均は52億9,000万円ということでございますので、52億1,000万円というのはほぼ全国平均といえます。

減少した主な要因としましては、2月21日から22日にかけて関東より東において寒波の影響がございまして、場外等の売上が伸びなかったこと、2月21日から23日にかけて関東地区でFⅠレースが別途開催され、売上が分散されたことが考えられます。

春日賞の期間中におきましては、場内において飲食屋台やタレント等のステージなどを開催しまして集客に努めておりまして、4日間で約1万人もの方々にご来場をいただいております。今後も多くの方々にご来場いただけるように取り組んでまいりたいと思います。

粕井委員長 : はい、ありがとうございます。委員の皆さん、何かご意見はございますか。じゃ、教えていただけますか。

平成29年の競輪場別GⅢ売上状況では、立川競輪場の一人勝ちですよ。それと、川崎が2回開催されていまして、7月の売上が極端に少ない。だけど、これ二つ合わせたらかなり突き抜ける形でしょう。久留米も2回ですよ。ちょっと中身について分からないので教えていただけますか。

事務局 : まず、立川競輪場が飛び抜けている部分ですけれども、これは年明けの正月開催でございまして、年末のグランプリからその勢いを引き継いで売上がぐっと伸びる日程ということでございます。

川崎競輪場につきましては、これは両方ともナイターでございまして、通常は昼間に開催する記念競輪をナイターで行うという、昨年度から試行で実施されているものです。ただし、昼間の開催の記念競輪はほぼ全国の競輪場で場外発売されますが、ナイターの場合は場外車券売場の数が通常の昼間の記念よりも少なくなり、売上が落ちますので、これを補填するために、ナイターの記念競輪は2回開催できるということになっております。

ただ、2回開催するとそれだけ支出が増えますので、収益的には厳しいのではないかなと思います。

粕井委員長 : ありがとうございます。

たしか立川の競輪場というのは設備としてもNo.1の競輪場だったと記憶しているんですが、そこが正月開催ということで、バックボーンとして最高

ですよね。

43の全国の場合で順番に持ち合わせでずっと回っていくと、そういう話し合いというのはないのでしょうか。一つのところだけ独占状態で、すごい運営して利益だけ上げるということで、競輪業界全体としていいのかなという感じを私は常に持っているんですけど、協議会の中で意見交換として出ないですか。

事務局 : 記念の開催月については、各施行者が全輪協に希望申請して調整のうえ決定されます。大体どこの場合も過去の経緯等から何月開催というのが決まっております。地元のファンにしても、ああ、この時期が来たら記念だという認識でおられます。奈良の場合は2月ということでファンに根付いており、他の月に変わると、次はまた2月に開催できるかどうか分からないという部分もありまして、どこの競輪場も他の月を希望しないという部分がございます。ただ、開催月のシャッフルにはつながらないということがございます。ただ、全施行者が良いと思っている訳ではないと思います。

粕井委員長 : そうしますと、これからこの委員会で検討していくわけですよね。この競輪場のいわゆる全面的なリニューアルというのか、機能を強化していく中で、奈良競輪場が全面的に変わったというような一つの節目のときに引っ張ってくるというのは一つのチャンスですね。

事務局 : そうですね。記念もそうですけれども、GⅢ以上のGⅡ、GⅠというところの特別競輪ですね。こちらの開催は希望制ですので、数年かけて施設を最低限の整備をして、それに向けて頑張っていく。一過性で終わるとそれが無駄になってしまうので、続けて、せめて2年、3年に1回はそういう特別競輪が開催できるというような、初期投資が必要だが後々に元がとれるというような、そういう方向でも検討していきたいと思っております。

粕井委員長 : はい、ありがとうございます。委員の皆さん方、ほかに何かございませんか。

中川部長 : 全国は右肩下がりですけど、場によって安定しているところ、また逆に上昇しているところについて勉強させていただいて、何でそうなっているのかというのを分析したいと思います。

気候変動とかいっても、毎年たまたまなものもありますし、立川さんでも、毎年70億円ちょっと売上か、いや、もともと80億円ぐらいあったのが下がっているのか、あるいはもともと60億円だったのが上がっているのかによって変わってきます。春日賞でも、24年度では71億円の売上が今年度52億円程度、全国平均は24年度64億円が今年度は52億円程度ということですが、これだけ見ても、たまたま24年度の春日賞、えらい売れたんやなあということになるのか、そのときの状況によっても分からない。

同じような傾向を示している場合は仕方がないとして、それに反して安定して売上を確保しているところとか、逆に上がっているようなところがあるのなら、ちょっと勉強したらよいのかなと思っております。

粕井委員長： ありがとうございます。

事務局： 先ほど委員長の質疑にあった久留米の記念が2回開催されているという件ですが、事前に委員長にお渡しした資料では、6月と10月に久留米記念開催となっておりますが、正しくは6月が久留米記念、10月は熊本記念でして、熊本記念は震災により本場で開催ができないため、久留米競輪場を借りて開催しております。本日、お配りした資料には正しく記載させていただいております。

粕井委員長： 競輪場を借りてということで、実質は熊本ということですか。

事務局： はい、熊本市の記念競輪を久留米競輪場を借りて開催したということです。

粕井委員長： 分かりました。先生方、ほかに何かご意見ございますか。

岡村委員： 先ほどの中川さんのお話でちょっと思ったんですけど、競輪だけではなくて、競馬とかボートなんかもどんな傾向にあるのかなと並べて見てみたいと思います。

粕井委員長： そうですね。競輪だけと違って、もっと大きな業界の全体的な動きがどうなのかということですね。

岡村委員： それと、これから大阪でああいう施設（カジノ）ができれば、そういうところと競輪の関係というのは何とかできないものかなあと・・・。

うまくいくと、母国に帰られて、海外から車券をネットで買ってくるということもあり得るのかなと思ったりするんですが、特に奈良というのは、非常に文化的に特徴のある都市なので、海外の人がひょっとして奈良に対してそういうイメージを持っていれば、そういうリンクを貼ることができるのかなと思います。

事務局： 先日、春日賞のときに奈良市の観光協会の方が来られました。外国人向けの奈良の観光コースを選定していく中で、目新しいものとして市内に競輪場がありますので、施設内を見ていただくバックヤードツアーや、競輪を実際に見て買っていただくというようなことができないかということも考えておられるようで、競輪とはどんなものかということで視察に来られました。今後、競輪場としましてもそういったことにも協力していきたいと思っております。

粕井委員長： オリンピック競技にも競輪、取り上げられているのでしたっけ。

事務局： はい。

粕井委員長： そういうオリンピックの競技に入っているのであれば、世界的な普及ということからいけば、一つのきっかけになって、つながる可能性もありますよ

ね。

中川部長 : ちょっと中国のほうのギャンブルの状況はどうなっているかわかりませんが、こういうのが日本でできます、奈良でできますと言って、中国や韓国の方を引っ張ってくるということを踏まえてみる必要があるかと・・・

岡村委員 : 中国はスポーツでの国威高揚というのを狙っていると思うんですけど、あんまり自転車で強いという話は聞いたことありませんね。

ただ、向こうがもし強化しようと思うと、こういう競輪を産業として一つ作ると、いわゆる自転車の人の幅が広がるということもあるので、案外、向こうにそういう話を持ち込むと乗ってくるかも分からない。

事務局 : 最近、トラックの選手は割と、強い選手が出てきています。

岡村委員 : ただ、競輪場みたいなのがあって、そこに人が集まっていったほうが、やっぱり育ちやすいというのはあるのかなと思ったりします。

粕井委員長 : 自転車ということと国民の日常生活の接点の度合いというのは、日本と違いますよね。通常の市民生活の足が完全に自転車という世界だから、自転車に対する距離というのは、もっと身近なものではないのかなと・・・。

中川部長 : 施設整備していくと、少なくとも英語、中国語などの表記をしていく必要があると感じます。

岡村委員 : 中国人の競輪選手を一部入れたりすると、中国の人はすごく興味持つかも分からないですね。

中川部長 : 飛行機乗って来られるので関空に皆入ってきますね。一番近いのは岸和田競輪場なので、いきなりそこへ行って体験してもらうのもいいかも知れない。

事務局 : いろいろ競輪を覚え、分かってもらうまでは説明がかなり難しいと思います。

中川部長 : これからそういうことも考えていかないといけませんね。

粕井委員長 : 前回のこの会議ですかね。全国の競輪場、全体的に過去のピークにはとても戻ってないけども、流れがちょっと右肩上がりのような感じで、競輪業界全体の流れが変わってきているというようなことをご説明いただきました。先ほど話がありましたように、次回の委員会まで結構ですので、ありましたら競馬、ボートとかいわゆるギャンブルのところの全体的な業界の売上動向をお願いします。分かる範囲で結構です。

非常に厳しい中から皆さん方の物凄いコストカットで効率化という形の中で利益が出てくるような形になってきているという大きな流れは変わってないですけど、売上が増加して利益が膨らむというような形の流れまでまだ至ってないというのが現状なのかなと思うのです。

もう一つ、ちょっとお聞きしたい。GⅢの春日賞の売上の本場、電投、場外等のトレンドというのは、もうほとんど変わりませんね。

事務局：そうですね。

粕井委員長：だから、売上が7.8%落ちたという原因は、場外で買ってもらえるウエートがどこなのかということによって変わってくる。今はこういう時代ですから、今はいろんな電子メディアで対応するというような大きな流れの中で、流れは避けて通れないですからね。

ほかに何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして議題Ⅱの平成29年度奈良競輪の売上状況について、ご説明をお願いいたします。

事務局：議題Ⅱにつきまして事務局から報告いたします。平成29年4月から平成30年2月末までの奈良競輪の各レースの売上状況の報告でございます。

FⅠレースの売上でございます。平成29年度は西日本カップという売上の大きなレースがなかったのですが、昨年度と同じ6節、FⅠレースを開催いたしまして、43億2,598万円の売上となっております。昨年度より約3億円、約7.6%の増となっております。全国のFⅠレースの売上がやや減少傾向にある中、電話投票や委託場外等の売上が増加したことによりまして、1節、3日の平均売上額が約7億2,000万円と昨年度と比較しまして5,000万円程度増加している状況にあります。

続きまして、FⅡレースの売上でございます。平成29年度は2月までに通常レース4節とミッドナイトが6節開催しており、売上は34億4,797万円となっております。昨年度より約1億円の減少となっております。

しかしながら、1節平均で比較しますと通常レースは平成29年度は約4,000万円増、ミッドナイトにつきましては約8,000万円増となり、1節当たりでいきますと大幅に売上が伸びております。3月にはミッドナイト競輪を3節予定しておりますので、年度売上では昨年度を上回るものと見込んでおります。

続きまして、平成29年度の本場開催レースの売上状況でございます。GⅢ、FⅠ、FⅡのレースの売上の合計でございます。

本年度の合計の売上は131億3,345万円となっております。前年度同時期と比較しまして、約2億1,000万円の減少となっております。これは春日賞の売上減もありますが、3月開催のミッドナイト3節分の売上を含んでいないため、売上が少なくなっております。

また、受託場外発売の売上状況につきましては、平成29年4月から平成30年2月末までの売上は約33億2,680万円となっており、昨年度同時期と比較しまして、約6億円の減となっております。

以上で、平成29年度の奈良競輪の売上状況の報告を終わります。

粕井委員長：はい、ありがとうございます。何かご質問、ご意見ございましたらお願いします。

岡村委員 : 右肩下がりというので一番気になるのは、損益分岐点ってどこら辺なんだろうなということです。もちろん、努力しておられるんで、徐々に下がってきているとは思いますが……。

粕井委員長 : GⅢ、FⅠあるいはナイターとか業態別の個別の売上の決算というのは、把握していただいていますか。

事務局 : 個別には出していません。

しかし、グレードによって大分差がありまして、昼間のFⅡというのは開催すればするほど赤字というところがありますが、ミッドナイトは利益率、大分高い収入がありますので、グレードごとの分析も必要かなと思います。

岡村委員 : どうしても商売していると分岐点が気になるものですから。

中川部長 : 岡村委員がおっしゃるのは当然で、1,000万円ぐらいを損益分岐点としたら、やはり1,000万円以上の売上が見込めなければ絶対しないということになると思います。かなり固定経費がかかる競輪の場合、賞金の分配率も選手の方々への分とか、あと開催経費がちょっと今、包括契約させてもらっているからいろいろと利益が出てきたんですが、またできそうな点については、また次の委員会のときに……。

岡村委員 : すみません。

粕井委員長 : いろんなジャンルありますが、経費も賄えない売上しか上がらないようなものは、経営の概念として……。

中川部長 : もうやめるほかないですね。

粕井委員長 : 当然のことですね。

でも、そうじゃなしに、全体としても利益が出ている。

例えばミッドナイト。当初取り入れるときに、いろいろ皆さん、ご検討なさったときに、照明設備などの経費が高く付くとかというような話でしたけど、実際やってみたら儲かってますでしょう。

事務局 : はい。昼間のFⅡ開催は、ちょっと赤字になるのですが、収益が見込めるミッドナイトが昼間のFⅡ1開催分に代えて2開催できるということなので、その上下の差はかなり大きいです。記念競輪がかなり目標より落ちましたが、ミッドナイトでカバーできるのかなというふうに思っています。

粕井委員長 : ジャンル別に売上は分かりますよね。もとの経費というのは大体把握できるんですか。

事務局 : 経費は把握できます。GⅢの記念でいいますと、収益率って大体6%ぐらいなのですが、特別競輪のGⅡ、GⅠですと大体4%ぐらいになっています。率は下がるんですけども、その分、売上がかなり伸びますので、収益としてはそちらのほうが大きいです。



粕井委員長： はい、分かりました。

ちょっと、これ表の中を教えてください。28年度ミッドナイト8節、29年度ミッドナイト6節で、これ売上の伸び率が97%ということですが、29年度のこの余白のところ、まだ開催があるんですね？

事務局： そうです。2月末現在ということですので、3月の3節分は入っておりません。

粕井委員長： はい、分かりました。

それはそうと、ガールズ競輪の売上、何でこんなよろしいの。

事務局： ガールズ競輪は、この1月のFⅡ開催で、売上が2億円いきました。通常は1億円台ですけれども、この1月の開催につきましては、トライアルレースということで、平成30年5月のガールズケイリンコレクションという平塚で開催されるんですけど、そこに向けた予選を兼ねたレースで、選手もかなり気合が入っておりました。

また、JKAの方もかなり広報していただきまして、そういうこともあってお客様もかなりついていただいたのだと思います。

粕井委員長： はい、ありがとうございます。委員の皆さん、何かご意見はございませんか。よろしいですか。

それでは、続きまして議題Ⅲ、平成30年度からの競輪事業について、ご説明をお願いいたします。

事務局： では、議題Ⅲについて事務局より説明させていただきます。

平成30年度以降の取組については大きな三つの方針に従い取り組んでいくことになっております。

一つ目は「老朽化した施設への対応」でございます。老朽化した競輪場施設に必要な整備（耐震化工事、修繕）等について今後の施設の活用予定などを見据えて、工事計画を検討していきたいということでございます。前回、耐震化工事をすべき施設と修繕が必要な設備等の説明をさせていただきましたが、今回は、来年度以降、耐震化工事にかかる3施設と修繕・更新工事が必要な設備等の計画の案の提案となります。

平成30年度につきましては、多目的ホールの空調機取替工事を実施します。それと中央スタンド、東サイドスタンド、第1投票所の耐震化工事の設計に入らせていただくということで、予算要求をさせていただいております。また、中央スタンド、第1投票所、管理センター、選手宿舍等の発電機・空調機更新の設計にも入らせていただきます。

平成31年度につきましては、発電機と空調機更新設計を行いました4施設の更新工事、それと管理センターの空調機の更新設計を予定しております。

平成32年度につきましては、中央スタンド、東サイドスタンド、第1投票

所の耐震化工事を予定しております。また、競走路（バンク）の路盤改修、照明設置の設計を予定しております。

平成33年度につきましては、競走路（バンク）の路盤改修工事、照明設備工事、多目的ホールの照明設備更新を予定しております。

その他の設備更新等につきましては、平成34年度以降に設計・施工していきたいと考えております。老朽化しております県事務所につきましても、改修するのか、改修工事を行う中央スタンドに移転していくなど検討を進めていきたいと考えております。

また、競輪場内には未利用の施設が複数ございますので、何か活用できないか、または除却して整地してしまうのかということを検討してまいりたいと考えております。具体的な案につきましては、今後また委員会の中でお示しして、ご意見をいただきたいと考えております。

二つ目は「地域に親しまれる競輪場」でございます。来場者をはじめ、地元住民の皆様、また自転車に関心を寄せる人々が交流しまして、さまざまに楽しめる競輪場を目指しまして、既存施設と民間のノウハウを生かした複合的な活用に取り組んでいきたいというところでございます。

今年度からは新たに、健康増進イベントと農産物直売イベントに取り組みました。

健康増進イベントにつきましては、体内年齢・血管年齢測定、管理栄養士による健康に関するアドバイス等を偶数月の15日に開催しております。定期的で開催しますことで、参加者の方も増えてくるのではないかと期待をしております。

農産物直売イベントにつきましては、競輪場に近い直売店舗の出張販売ということで開催しております。大きなレースを開催しているときに、直売イベントを開催していくことで、来場者の方や近所の住民の方にも喜んでいただけることを期待しております。

平成30年度以降の取組ということでは、自転車教室をするほか、場内の一部に芝生を敷きまして広場として整備いたします。また、イベントステージを設置しまして、競輪場の雰囲気や家族連れなどの方に気楽に会場いただくような場を創出していきたいと考えております。あわせてフリーマーケットなども開催し、広く皆さんに競輪場に足を運んでいただけるような取組をしていきたいと考えております。

平成31年度からは、競輪場の施設・会議室などの活用を進めていきたいと考えております。

平成33年度には競輪以外のスポーツ、例えばバスケットボールのゴールなどを設置するなど、パークアクティビティの整備を進めたいと考えておりま

す。

なお、先ほどもちよっとお話が出ていました競輪場の観戦ツアーですとか、バックヤード見学ツアー、バンク走行イベントなども考えているのですけれども、耐震補強や競走路のバンクの路盤改修工事をして、きれいにした状態でやっていきたいというふうに考えておりますので、この案では平成34年度以降に取り組むものとして示させていただきます。

また、サイクリスト向けにトイレや休憩スペースの開放など、奈良競輪場をサイクルスポーツの振興・交流の場としてより広く利用していただけるように、自転車クラブや自転車関連ショップなどと連携した活動などにも取り組んでまいりたいというふうに考えております。

三つ目の「新たな収益確保策の検討案」でございますが、収益確保のために、来場者向けサービスの充実と新規ファンを増やすための取組、そして新たなレースの開催と三つの方針を掲げております。

来場者向けサービスの充実では、ロイヤルシート（特別観覧席）の整備を中央スタンドの耐震補強後に取り組むたいと考えております。

新規ファンを増やすための取組は、企業協賛のレースを開催して、当該企業の従業員の方にも来場していただけるような取組、また奈良競輪所属のスター性の高い競輪選手を育成していくような取組などを平成31年度から実施していきたいと考えております。

新たなレースの開催につきましては、ミッドナイト競輪を昨年度より開催しておりますが、耐震化工事やバンクの改修など終わります平成34年度以降を目標に、ナイター競輪、特別競輪などの開催を検討していきたいと考えております。

最後に、平成34年度以降の競輪場のあり方に向けた検討スケジュールの素案でございます。平成34年度以降の競輪場の方針を平成32年度の末までに示すこととなっておりますので、そのための検討スケジュール案となります。来年度から平成32年度まで年2回のペースで、このあり方検討委員会を開催いたしまして、その間に平成34年度以降の競輪事業をどのようにしていくかを詰めていきたいと考えております。平成32年度末の第23回のあり方検討委員会で平成34年度以降の方針を確認しまして、平成33年度はその方針に基づき事業を進めていき、平成33年度末の第24回のあり方委員会で、これまでの総括を行っていただくことを考えております。

以上で議題Ⅲの説明を終わらせていただきます。

粕井委員長： ありがとうございます。何かご意見、ご質問ございましたらどうぞ。

松岡委員： 長期のプランをわかりやすくきちんと作っていただき、今後4年間ぐらいで取り組まれる内容がよくわかるというのが最初の感想です。

来場者向けのロイヤルシートは、競輪の場合は車券の収入というのがかなり大きいので、野球とか「見るスポーツ」とは収入の構造が違いますが、今このロイヤルシートというか特別席というのが主流で、そこで稼ぐということもありますので、ぜひ本当にいいものを計画して作っていただければと思います。

もう一点は新規ファンのところで、これまでもいろんなことに取り組んでいろんなイベントをやっていたかと思いますが、先にお送りいただいたアンケート結果を見させていただいても、住民の方がイベントを通してここに足を運ぶとかということが多いので、ますます積極的にやっていたらと思います。

あと、アンケート結果を見て気になったのは、書き方としては柔らかく書いてありますが、かなりイメージが悪いというのを改めて感じました。競輪そのものからちょっと外れた部分とかでいろんなイベントを開催され、イメージを変えていっておられるのは今取り組み始めたばかりなので、アンケート結果が年々変わっていけばと思います。

しかし、新しい面白いこととか、地域に役立つようなことをやっていることで知られてない部分があって、なかなかイメージが変わっていかないのかなと思いますので、プロモーションのやり方をいろいろ工夫し、どういふ方に情報発信をしていくかとかいうところがかなり大事になってくるかと思っています。

鮎井委員長： はい、ありがとうございます。

石黒委員： 取組について意見というよりコメントに近いようなものですが、少し申し上げさせていただきたいと思います。老朽化した施設への対応、地域に親しまれる競輪場、新たな収益確保策の検討など、本当にこの三つの柱というのはとてもよくできたコンセプトで、これまで我々議論してきたことも的確に反映させていただいて、とてもよいかなと感じております。

私の職業の立場ですとどうしても、競輪は地方公営競技法に位置づけられた公営賭博で、もともとは賭博というのは違法だけど、それが法律上正当化されるのは地方の財政に貢献するだとか、もともと人間というのはどうしても賭博が好きな面がありますから、それが野放しになって反社会的勢力に管理されて、そこで何か違法な資金源になったり、やたら賭博にはまってしまって多額の債務を抱えたり、ギャンブル依存症に落ち込んじゃうような人が生まれるよりも、適法な範囲内で、適当な範囲内で健全な娯楽として楽しんでもらう、なおかつ、自治体が運営する以上、地域の生活環境、特に風紀面での、風紀や治安の問題との調和ですとか、あと地域経済にどう貢献できるかとか、その辺とうまくリンクさせて管理させていただける。やっぱり地方

公営競技というのが本来は違法な賭博行為が法律上認められている。我々の業界ですとそんなふうな受けとめ方になりますね。

ですから、民間ベースの経営だったらどれだけディープにはまってくれるお客さん、リピーターをつくるか。もしそのリピーターがギャンブル依存症になろうが、多額の債務を抱えてバカラで破産しようが、それはもう知ったことじゃないとなるでしょう。

ところが、自治体がやっていただくというのは、地方財政に貢献しなきゃ意味がないから、きちんとコストカットしていただいて黒字は毎年出していただいて、財源に貢献していただかなきゃならない。しかし、利益は出るんだけどギャンブルのせいでお金を吸われる県民が出てしまうとそれはまずいし、いろんな方がたくさんやってくる影響で、風俗的に地元の環境が悪化したり治安が悪化したりしても困る。

ですから、地域に親しまれる競輪場として、いろんな企画を立てて楽しんでいただく、地元の環境との調和を図っていただく、また、集客についても、新たな収益確保策の検討という形で広く浅くいろんなところに呼びかけて、特定の人のはまるんじゃないなくて、お客さんを広げることで収益を上げていただく、またロイヤルシートみたいに、お金がある人はその範囲で楽しんでいただく、本当に生活が苦しくなってもかけごとにはまって負債を抱えるなんていう状況じゃなくて、ある人はある人なりに楽しめる範囲でお金をつぎ込んでいただくみたいな、こういう企画というのは方向性としてはとてもよろしいのかと思います。うちの業界もカジノ法案とか公営競技についてはいろいろ意見を言う機会もあるんですけど、こういう方向性で広く浅く地元の環境と調和するような感じで、なおかつ現地に来ても非常に耐震構造もしっかりして安心して楽しめるという形で運営していただければ一番よろしいのかなと思います。

鮎井委員長： はい、ありがとうございます。

岡村委員： ちょっとさっきから頭の中でインバウンドのことばかり考えておりました、ビットコインなんかもまだまだこれからだとは思いますが、そういうもので海外から車券を買われ、奈良競輪に来てもらう、もしくは奈良のどこかでお金を引き出して、多少のプラスアルファしながら、奈良の中でお金を使っただくみたいな仕掛けをしたいですね。

それとか、例があるかどうか分かりませんが、外国人の方を選手として何名か試しに採用してみるとか……。例えばモンゴルなんかは相撲で日本にたくさんの方が来ていて、ひょっとすると、自転車もなんていうふうなことがあるかもわからない。ボートだったら水が必要だけど自転車というのはモンゴルとかでもありじゃないかなと、いろいろ考えています。

鮎井委員長： 今ご説明いただきました老朽化施設への対応、親しまれる競輪場、新たな収益確保策の検討、この三つをどう具現化していくかが大事だと思うんです。

そこで、ちょっとお聞きしたい。この老朽化施設の設計・施工のタイムスケジュール具体的に落としていただいて、こういう風に動いていくということは非常によく分かるのですが、予算は大丈夫ですか。

中川部長： よほどの経済変動が激しくなるとか何かあったら別ですけど、基金もありますし、それは途中でやめるということは多分ないと思うんですけど。

来年度は設計だけなので、そんなに多額なお金は要らないと思いますが、実際工事が始まると、売上のことも考えながら基金も積まないといけませんし、一般会計のほうにもいくらかは繰り出しをしないと格好がつかないということになりますので、そこを見てということになると思います。

鮎井委員長： あの基金は、特定目的基金ということで考えていいのでしょうか。

事務局： おっしゃるとおりで、目的がこの競輪場の施設改善ということになっております。今、10数億、15億ほどありますけども、それを使いながらこの設計施工を行い、単年度で収益があった場合は積み立てていくという形で進めていきたいと考えており、実はこの設計等をする財源には基金を充てておりません。

鮎井委員長： 分かりました。

平成30年度の取り組みとして、自転車教室、芝生広場、イベントステージと三つほど挙げていただいたんですが、貸し出しをするのに使用料を取るようになってきているのですか。

事務局： これは、ファンサービスの一環としてやらせていただく予定でおります。

鮎井委員長： より親んでもらいたいという形でなさるのですね。

事務局： そうです。

鮎井委員長： 今後は収益考えて、当然使用料をもらうとかいうような形のことも・・・。

事務局： そうですね、そういった貸館も考えていく必要があると思っておりますが、こういうものをつくって、そこを自由に使っていただければ良いのかなど。そこはファンサービスの一環という捉え方もあるでしょうし、地域の方がそこで何かやりたいという希望があれば、皆さんに親しんでいただくという意味で自由に使っていただけていただけたらと良いと思います。

鮎井委員長： イメージとしては、仮設ステージみたいな程度ですか。

事務局： はい。

鮎井委員長： 東側の駐車場は何台ぐらいとめられますか。

事務局： 1000台ぐらいですかね。

鮎井委員長： 1000台もの車をとめられる駐車場を持っている施設ってありませんね。

無料で提供することを考えたときに、イベント広場をこの中へ持ってきて、

観覧席を観客の場所として、ここでライブをやらせるとかアイデアとして考えていったら、かなり使用料も取れるというふうになるのかなと思います。

さっき松岡委員からありましたが、競輪場に対する好感度が上がってこないという原因というのが、コンクリートの壁で囲まれて、皆さん方ここへ近寄らないでくださいという風なイメージを受けるのですね。だからこのイメージを変えるとか、もっと中を開放するとかいうことを今後考えていくべきなのかなという感じがするのです。

ちなみに自転車教室、芝生広場、イベントステージ、これからお貸しになる具体的な日は分かっていますか。

事務局：いえ、ここはまだ具体的な日までは。

粕井委員長：決まりましたらちょっと教えていただけませんか。一度実際になさっているとときに、現場でちょっと見学させていただいたらイメージが湧いてくると思います。

はい。皆さん、よろしいですか。

中川部長：松岡先生のイメージが悪いというのはまさしくそのとおりで思っています。たまたま今回20年ぶりぐらいに春日賞のときに来させていただいて、競輪場のイメージが変わったなという思いがあります。先ほどご挨拶で申し上げたとおり、子どもさん、若いご夫婦、女性の方も来られている。実はそれがちょっと驚いて、大分変わったなという部分です。

結局、客商売ですので、だからどんなイメージをつくっておくのかというのは大切です。例えば場内の施設で使っていない施設がたくさんあります。使っている施設はそれでいいのですが、未利用施設は普通の客商売であれば更地にしておいて、次また何かを使うようになったらそれを使いますよね。その辺も含めて優先順位を変えていきたい、ちょっと考えていかないといかんのかなと思いました。

芝生広場を今年度からやりましょうということですが、実は西大寺の周辺って結構緑があるようでも、公園ってないのですね。だから、うまく常時開放して危なくないようにすれば、近所の小さい子どもさんを持っておられるお母さん方に来ていただけるのではないかと。また、高齢の方もかなりおられると思うのですが、例えばその芝生広場の周辺でもいいですが、ちょっとおじいちゃんおばあちゃんのたまり場じゃないですけど、座ってもらって、お茶飲んでもらって、何かおしゃべりをしてもらう場を作るのはどうか。そうしたら、自分の子どもさんやお孫さんなども連れてこられるのではないかと。

そういうようなことを考えていったら、競輪をしない方も何げなく来ていただけるのではないかと。

委員長がおっしゃったように、中に入られて、あっ、きれいだなと大概の

人は思われると思います。競輪場ってどんなところだろうと思っている人が結構いると思うのですよね。だから、バンクを見て、ああ、ここはきれいだし、選手がばあっと回っていた、それを見ているだけでもいい時間つぶしになるという気がします。

売上にはつながりませんが、ここが県営である以上は、そういうことも考えていかなければという風に思っております。

お年寄りの方がたくさんおられると思いますので、お年寄りのたまり場にまた、子どもさん連れのお母さん方も安心して来られる場所ということで、セットで考えていくのも一つなのかなと思っています。

岡村委員：（バンクを見て）これ今は練習されているのですよね。

事務局：はい。

岡村委員：ふらっと来たとき、練習で走っているのを見るだけでも、気持ちがいいのだが、練習の日取りなんかはネットの中に全然載っていない。ちょっともったいないなという気がするのですけれどね。

鮎井委員長：部長おっしゃるように、競輪場のイメージも変わっていますよ。結構若い方も増えてきたしね。

しかし、やっぱり競馬と比べたら競輪は悪いというのが、皆さん持っておられるイメージだと思いますね。

中川部長：近所の人に少しでも来てもらえるようにしていかないとと思います。実際に来ていただいて、少しずつ変なところじゃないということを体感してもらわないといけない。

今回、芝生広場を考えてもらっていますので、少しずつですけど、きっかけをつくっていくのが大事なのかなと。来ていただいたら、何や変なところと違うじゃないか。きれいにしてあるし、バンクもきれいだし、ゆっくりできるしいなあとと思ったら、それがまた、子どもさん連れでお母さん方が来てくれますから、その流れをつくっていくしかないのかなと思っています。

事務局：今日は報道関係の方がいらっしゃらないですけど、「変わる奈良競輪」みたいな記事を組んでもらって、家族連れのお母さんと子どもが芝生で遊んでいるような写真を載せてもらったりしていくと、ちょっとずつ知ってもらえるのかなと思うのですけど・・・。

岡村委員：あと、トイレがきれいになりましたとか、そういうのは結構インパクトがあると思います。

中川部長：実は私、去年3月まで奈良医大にいましたが、ぱっと入られたら、ものすごくきれいになったという印象を結構皆さんからいただいているのですが、何をしたかという内装を改装しただけで、たいしたことは何もしていません。壁と廊下の色と天井の照明と、岡村委員がおっしゃったトイレを改修し



ただけです。それも一度にできないので、徐々に五、六年かけてやったんです。そしたら、何年かたったら、ええっ、変わったなというふうに見ただけ。そうしたらやはり来やすい病院となる。イメージ戦略ですね。

だからそういう意味で、例えば壁はちょっと窓があるフェンスに変えていくとか、あるいは壁に色塗りしていくとか、汚いもの、使っていないようなものはなるべく早く除却して更地にしておいた方がいい。そして、使っているところは耐震などきちんとしていく。

日本人ってこれから人口がどんどん減りますよね。日本にはいいポテンシャルがあるので、やはり海外の方をいかに引っ張り込んでくるかということを実際に考えていかないと。多分、早くやった者が勝ちだと思います。

岡村委員： 外国人の競輪選手がデビューされたという記事はまだ一回も見ることがないので、今やったらやった者勝ちですけどね。

中川部長： 選手会とか全国の団体があるからあんまり言えませんが、その辺やった方がいいんじゃないかと。

粕井委員長： ここに子どもさんの公園がありますけど、付け足したような公園で子どもが遊んでいるのを見たことがないです。食堂もありますけど、家族連れで食事行こうかという雰囲気ではないです。今後はそういうことも考えて・・・。

中川部長： 儲けには即つながらないですけど、そんなことも考えていかないといけないと思います。

岡村委員： 案外、そっちのほうで儲かるか分かりません。

粕井委員長： よろしいですか。

それでは、議題Ⅳ、その他についてお願いします。

事務局： 議題Ⅳのその他でございます。

次回委員会の開催についてですが、本日のスケジュールの中で事務局より提案させていただきましたとおり、地域に親しまれる競輪場、老朽化した施設への対応なども踏まえまして、34年度以降の競輪のあり方について、さらに検討を進めていきたいと思っております。

また、各委員の皆様にも本日の審議等で今後の競輪業界の動向について、奈良競輪の経営状況等を踏まえながら御審議していただきたいという風に考えておりますので、平成29年度3月末までの収支等ができます7月頃に次回委員会の開催をお願いしたいと考えております。

以上でございます。

粕井委員長： はい、ありがとうございます。何かご意見はございますか。

これ、スケジュールということで、具体的なタイムスケジュールで動いているというのは極めて大事だと思います。平成33年の第24回が最終という形で、34年度以降、方針に基づいて事業に対応していくという風になっていま

すが、平成33年でこの委員会は終了させていただいて、お役御免いただくという理解でいいですかね。

事務局 : 今のところ、とりあえず5年間継続するよという御判断いただきましたので、そのことを踏まえてまずそこで判断していただくという、大きな役割がここで終了するということが最終と書いています。その時点で、本当に健全化して何も問題もないというような奈良県営競輪であればもう必要ないということにもなりましょうし、まだまだ不安定要素があって、検討していく必要があるということになれば、また引き続きお願いすることになると思います。

粕井委員長 : 分かりました。こういうスケジュールで皆さんよろしいですか。

それでは、本日の次第に基づきます審議、これで全て終了いたしましたので、事務局へお返しさせていただきます。お願いします。

事務局 : どうもありがとうございました。今いただきましたご議論、ご意見踏まえて県営競輪を進めさせていただきたいと思います。

また、御指示がありました全国の公営協議の状況等の資料につきまして作成し、また次回の会議で報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に中川部長よりご挨拶申し上げます。

中川部長 : 本日はお忙しいなか、時間をいただきましてありがとうございました。忌憚のないご意見をいただき、またそれぞれの立場から本当に競輪場についてこれからどうしていくのかということをご意見いただき本当にありがとうございました。

本当に外部の方のご意見を聞くというのは非常に重要なことだと思っておりますので、また調整していただきましてお集まりいただきしたいと思います。ありがとうございました。

(10 : 30閉会)